

[参考] 先月からの主要変更点

	5 月月例	6 月月例
基調判断	<p>景気は、おおむね横ばいとなっているが、<u>引き続き不透明感がみられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業収益は<u>改善しており</u>、設備投資は<u>持ち直している。</u> ・雇用情勢は、失業率が高水準で推移するなど、依然として厳しい。 ・個人消費は、おおむね横ばいで推移している。 ・輸出は<u>緩やかに増加している一方</u>、生産は弱含んでいる。 <p>先行きについては、アメリカ経済等の回復が持続すれば、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、アメリカ経済の先行き、株価の動向、重症急性呼吸器症候群（SARS）の影響等を巡る不透明感により、我が国の最終需要が引き続き下押しされる懸念が存在している。</p>	<p>景気は、おおむね横ばいとなっているが、<u>このところ一部に弱い動きがみられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出は横ばいとなっている中で、生産は弱含んでいる。 ・企業収益は改善のテンポが<u>緩やかになり</u>、設備投資は<u>持ち直しの動きが緩やかになっている。</u> ・雇用情勢は、失業率が高水準で推移するなど、依然として厳しい。 ・個人消費は、おおむね横ばいで推移している。 <p>先行きについては、アメリカ経済等の回復が持続すれば、景気は持ち直しに向かうことが期待される。一方、アメリカ経済やアジア経済等の先行きを巡る不透明感により、我が国の最終需要が引き続き下押しされる懸念が存在している。</p>
政策態度	<p>政府は、<u>金融・経済情勢等を注視しつつ、引き続き金融、税制、歳出及び規制の四本柱の構造改革を推進することにより、民間需要主導の持続的な経済成長の実現を目指す。</u>さらに、「<u>証券市場の構造改革と活性化に関する対応について</u>」に基づいて、<u>可能なものから早急に対応を行うこととした。</u></p> <p>政府は、<u>5月17日、金融危機対応会議を開催し、金融危機を未然に防ぐため、りそな銀行に対する資本増強の必要性を認定した。</u>また、同日、同行に対し、<u>日本銀行は、必要が生じた場合ただちに所要資金を供給する方針を決定した。</u>日本銀行は、さらに、<u>4月30日に続き5月20日に金融市場調節方針を変更し、日本銀行当座預金残高目標を引き上げ、27～30兆円程度とすることを決定した。</u>政府は、日本銀行と一体となって、<u>金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指す、引き続き強力かつ総合的な取組を行う。</u></p>	<p>政府は、<u>持続的な経済成長を実現するため、引き続き構造改革を推進する。</u>このため、<u>6月中を目途として、経済活性化、国民の安心の確保、持続可能な財政の確立等を目指して、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003（仮称）」を取りまとめる。</u></p> <p>日本銀行は、<u>6月11日、資産担保証券の買入れの具体的スキームの骨子を取りまとめた。</u>政府は、日本銀行と一体となって、<u>金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指す、引き続き強力かつ総合的な取組を行う。</u></p>

各論

	5 月月例	6 月月例
設備投資	<u>持ち直している。</u>	<u>持ち直しの動きが緩やかになっている。</u>
企業収益	<u>改善している。</u>	<u>改善が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。</u>
倒産	<u>おおむね横ばいで推移している。</u>	<u>緩やかに減少している。</u>
輸出入	輸出は、 <u>緩やかに増加している。</u> 輸入は、 <u>緩やかに増加している。</u>	輸出入は、 <u>ともに横ばいとなっている。</u>
国内企業物価	<u>横ばいとなっている。</u>	<u>弱含んでいる。</u>

(注) 下線部は、先月から変更した部分。